



国際交流員 (CIR) の 多彩な活躍

JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者は、外国語指導助手（ALT）、国際交流員（CIR）、スポーツ国際交流員（SEA）の3つの職種に分けられる。中でも CIR は、日本語能力試験 N1 ～ N2 レベルの高い日本語能力を有し、地方公共団体での国際交流活動などにおいて活躍している。主に通訳などの業務が一般的であるが、本特集では、通訳だけでなく、多文化共生や外国語教育、経済活動において多彩な活躍をみせる CIR について紹介する。

〔(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課〕

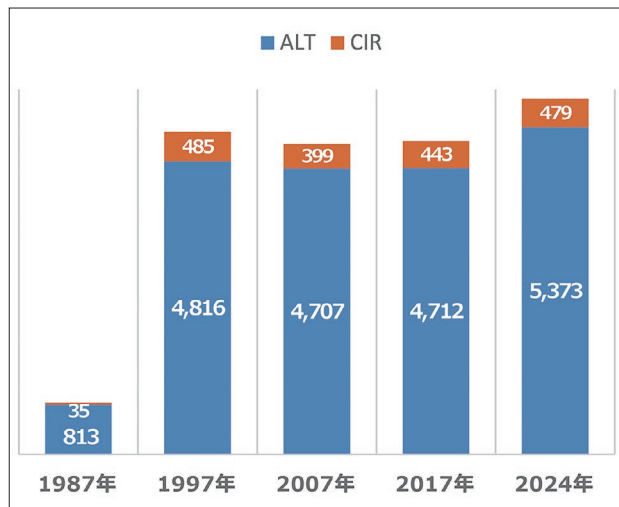
1

国際交流員（CIR）の概要

（一財）自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

参加者数と国籍の変遷

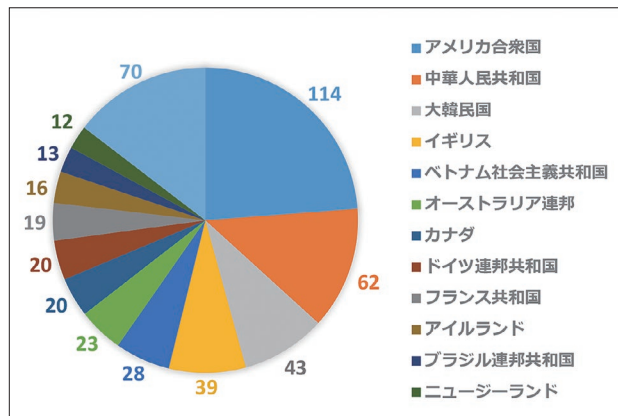
JET プログラムは、1987 年に地域レベルの国際交流を推進する制度として開始され、来年（2026 年）には 40 周年を迎えます。JET プログラム開始当初、参加者の第 1 期生は全体で 848 人であり、そのうち CIR はわずか 35 人でした。しかし、2024 年 7 月時点の参加者数は全体で 5,861 人であり、そのうち CIR は 479 人と、開始当初と比較して、約 14 倍に増加しました。



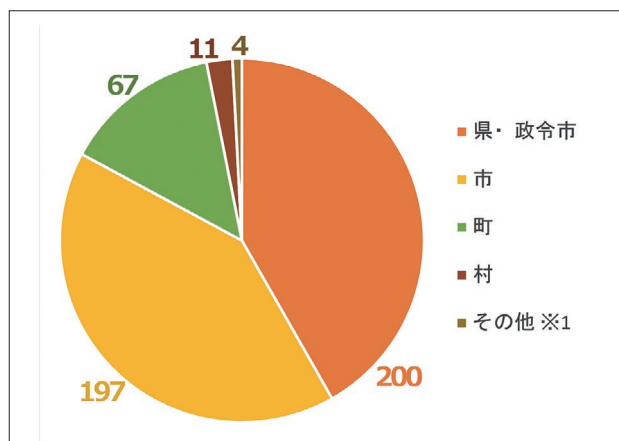
ALT および CIR の参加者数推移（単位：人）

また、参加者の多くは外国語指導助手（ALT）として来日することから、全体に占める CIR の割合は高くはありません。しかしながら、プログラム開始当初に CIR が全体に占める割合は約 4 % でしたが、2024 年 7 月時点では約 8 % と開始当初と比較すると高くなっています。

CIR を国籍別で比較すると、1987 年は 4 カ国（アメリカ、イギリス、オーストラリア連邦、ニュージーランド）のみの参加でしたが、2024 年 7 月時点の参加国は 35 カ国と、当初と比較して約 9 倍となっており、英語圏以外の国の参加者も、各地方公共団体において国際交流の推進に寄与していることが分かります。



2024 年の参加国別の CIR 参加者数（単位：人）



都道府県・市区町村・その他（※1 東京都特別区、私立学校など）の CIR 参加者数（単位：人）

また、CIR の多くは、都道府県および市区町村の国際交流関係部局や教育委員会などに配属されています。

多彩な職務内容

CIR の職務内容は、任用される地方公共団体によって異なりますが、多くの CIR に共通する主な業務として、翻訳や通訳、学校訪問・出前講座、イベント運営、姉妹・友好都市との連絡補助などがあります。

その他にも、留学生や ALT のサポートを行ったり、やさしい日本語の推進を行ったりするなど、任用されている地方公共団体ごとの特色や課題に応じたさまざまな業務に従事しています。



姉妹都市代表団受入時の視察における通訳の様子

職務内容	従事者数 (人)	従事割合
翻訳	430	97%
通訳	396	89%
学校訪問・出前講座	367	82%
イベント	338	76%
姉妹・友好都市との連絡補助	228	51%
外国人住民支援・相談	182	41%
テレビ・ラジオ出演	117	26%
SNS・HP	261	59%
観光	149	33%
情報誌・広報誌	212	48%
語学教室	199	45%
動画編集	81	18%
職員研修	100	22%
PA（取りまとめ団体アドバイザー）	62	14%

2024 年度 CIR データベース（445 人）の回答結果から作成

現役参加者への研修会

クレアでは、現役の参加者に向けてさまざまな研修会を行い、業務におけるさらなる活躍の推進を図っています。今後も研修内容の充実を図り、全国で活躍する CIR の糧となることを願っています。

○ CIR 中間研修

CIR の活躍促進を図るため、業務に必要な知識、技術および情報を得るとともに、地域における国際化についてさらなる理解を深める機会を創出しています。外国人住民の支援に関することや、SNS 発信力の向上などの講義を行っています。

○ 翻訳・通訳講座

CIR にとって、翻訳・通訳はほぼ全ての任用団体での共通業務となっています。そこで、翻訳・通訳スキルを向上させ、任用団体の国際化に貢献することを目的として実施しています。なお、必須要件ではありませんが、日本語能力試験 N2 以上相当の日本語能力のある参加者を主な対象としており、業務において高い日本語能力が求められる CIR にとって役立つ講座となっています。



2024 年度翻訳・通訳講座の様子

まとめ

JET プログラムでは、さまざまなバックグラウンドを持つ CIR が、各地方公共団体において多彩な活躍をみせています。本特集では、次項から、翻訳・通訳だけにとどまらない CIR の多彩な活躍について、現役 CIR およびその任用団体の事例をもとに紹介しています。本特集が任用団体および CIR にとって、国際交流などのさらなる推進に役立てていただけることを願います。

島根県庁環境生活部文化国際課のブラジル出身の CIR として、2 年目の任期を迎えました。

神々の国と呼ばれている島根県は古事記や日本書紀に記されている神話と深く関連している出雲大社があり、全国の神々が1年に一度集まる「神在月」という特別な時期があります。多様な神々を歓迎することを古くから行っているこの素敵な地域に派遣されたことは、島根県で言われる「ご縁」に恵まれたおかげだと思っています。

温かさで溢れた地域の人々と触れ合いながら、外国人住民の支えになるヒントを日々考えています。

CIR としての思い

島根県内では、第一次産業での人手不足や電子部品メーカーなどの製造業の生産量の増加に起因して、外国人住民の数が年々増えており、2025 年には1万人を突破しました。

私自身、両親の仕事の関係で幼少期の数年間を日本で過ごしており、外国人として学校生活や私生活での不安を経験しているので、いつか在日ブラジル人の支援に携わりたいと心のどこかで思っていました。また、在日外国人について調べていくうちに、さまざまな国籍や背景、在留資格、職業、目的があって日本で暮らしている人たちがいると知り、さらに支援の必要性を実感し、貢献したい気持ちがますます大きくなっていきました。



多文化理解を目的とした出前講座でブラジルを紹介

あらゆる背景で来県する外国人がいる中、島根県は外国人住民と地域住民が共に支え合う地域づくりを推進し、日本語学習の環境整備、相談体制や生活支援の拡充、外国人住民への情報発信強化、防災対応の充実、市町村と連携した多文化共生意識の醸成などに力を入れています。

私はこれらの取り組みに協力し、外国人住民が生活に不自由なく、過ごしやすい環境づくりに携わりたいと思い、JET プログラムに応募し、現在は多文化共生に関わる業務に従事しています。

島根県の外国人住民の現状とこれからの取り組み

島根県の外国人住民数の3割以上を占めているブラジル人住民は、いくつかの地域に集中しており、単身ではなく家族で暮らしている場合が多い傾向にあります。そこで、現在注目されている生活支援は、外国にルーツを持つ子どもの教育現場での支援です。

両親の仕事の関係で来日した子どもたちは日本語学習や学校での勉強に苦戦し、進学や就職に影響を及ぼすことがあります。そのため、島根県教育委員会や各市役所が多言語サポートに取り組み、ボランティア団体や（公財）しまね国際センターが日本語教室や学習支援教室などを実施するなど、県内ではさまざまな形の支援が展開されています。

発達段階の子どもたちがどのように新しい環境での生活に慣れていくのかや、日本語を習得しながら母語を継承し、周りとうまくコミュニケーションを取っていくのかを見守りながら、成長できる生活環境を作り上げることが、私たちの役目だと思っています。また、支援を受けていた子どもたちが成長し、就職したり、地域社会の一員としてさまざまな活動に参加したりすることで、「サポートする側」として地域に貢献できるようになる—これが多様性のある街づくりだと思います。

何度かボランティアとして参加している「こどもサポートプロジェクト」の活動では、ブラジル国籍だけでなく、言語的・文化的に多様な子どもたちが、受け入れ

られていると実感し、安心して過ごすことができる居場所づくりを目指し、さまざまな交流の場を作っています。子どもたちが安心して、自分らしく振る舞って楽しむ場所、自分のルーツを恥ずかしがらず、アイデンティティを形成していける場所が「居場所」だと私は思います。

このような交流の場がかけがえのない大切な場所になっていることを子どもたちの笑顔を見て実感しています。



「こどもサポートプロジェクトー夏のノジイロ!」で多国籍の子どもたちが家族と共に楽しんでいる様子

また、島根県では現在3人のブラジル出身のCIRがブラジル人住民の多い地域に配置されており、多文化理解、国際交流活動、在住外国人の支援などに取り組んでいます。



子どもサポーター養成講座で外国ルーツの子どもたちの視点から説明

その中で、私は主にブラジル文化講座や多文化共生推進講座を日本語ボランティア団体や教育委員会、県の施設などで行っています。二国間の教育制度や医療制度の違い、習慣や価値観、文化の違いなども講座の内容に加えて、相互理解を深められるよう意識して実施しています。

また、多文化共生に興味がある人だけではなく、もっと広い範囲の人たちを巻き込んで、一緒により良い地域づくりについて考えていけたらと思います。「多文化共生」の認知度を上げることを今後の目標にしています。

CIR という懸け橋

両国の文化を理解している私たち、CIRだからこそ伝えられることがあり、生み出せる魅力があると思います。日本ならではの考え方である「建前」「空気を読む」「間の感覚」を理解しつつ、母国の生き方や人との関わり方を考慮した上で見えてくる新しい生き方がきっと生まれると思います。

世界にある多くの壁は、言語によるものではなく、偏見や差別によって作られているものだと思います。そこで、CIRは言語の懸け橋だけではなく、考え方や価値観を分かち合う相互理解のある地域づくりのために欠かせない存在だと信じています。

プロフィール



Miura Carolina Momoe
(ミウラ・カロリナ・モモエ)

ブラジル連邦共和国サンパウロ州出身。国際関係学部を専攻し、ブラジルに進出している日本企業や日系社会に関する仕事に携わってきた。2024年から島根県庁でCIRとして着任。

多文化共生に貢献する国際交流員（CIR）②-1 ～当事者の声をつなぐ CIR の力～

京都府京田辺市市民部市民参画課 主事 原田 成至

京田辺市の現状

京田辺市は、京都府南部に位置し、京都・大阪・奈良の三都市へのアクセスに優れたまちです。現在、人口は増加傾向にあり、外国人住民の数も徐々に増えています。こうした状況の中で、誰もが暮らしやすい、多文化共生のまちづくりが求められています。

しかし、現状では、外国人住民からの生活に関する困りごとが、市役所まで直接届くことは多くありません。また、地域に暮らす外国人コミュニティのキーパーソンやネットワークを市として十分に把握できていないことが課題となっています。その中で、市民参画課では、CIR（国際交流員）を中心に、行政情報の多言語化や日本語教育の推進など、言語の壁を越える取り組みを進めています。

当事者としての視点

CIR が多文化共生の業務に携わる最大の強みは、「当事者としての視点」を行政の中に持ち込めることです。京田辺市の CIR である莉愛（りあ）さんは、行政が発信する情報の中に、外国人住民にとって伝わりにくい表現があることを的確に指摘し、表現の見直しに取り組んでいます。翻訳者としてではなく、生活者として現場のリアルな声を行政に伝えてくれる存在です。



同志社大学の留学生へ講義をしている様子

例えば、「やさしい日本語」研修では、莉愛さんが企画段階から関わるようになって以降、より実務に即した内容へと改善され、参加者からの評価も高まっています。

さらに、莉愛さんが持つ CIR としてのネットワークは、市の施策を進める上でも大きな力になっています。市内の外国語指導助手（ALT）や同志社大学の留学生などと関係を築き、事業に巻き込むことで、一人では抱えきれない業務を「楽しさ」と「共感」で広げているのが印象的です。

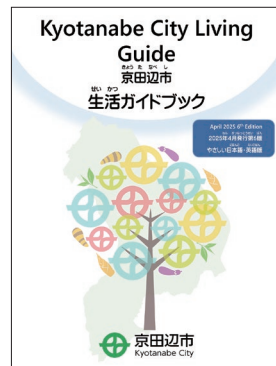


ALT と府内の CIR とのイベント後の集合写真

地域と行政をつなぐ「懸け橋」として

今後、国際化が進むにつれ、CIR に求められる役割はますます多様化・高度化していくでしょう。本市では、異文化理解の促進や外国人住民も暮らしやすい環境づくりが必要です。そのためには、教育、福祉、防災といった多様な分野で市内の理解を深め、横断的な連携を進める必要があります。

CIR は、外国人住民と行政、そして地域社会をつなぐ「懸け橋」として、これからのまちづくりに欠かせない存在です。莉愛さんの取り組みを通して、多文化共生が「特別な取り組み」ではなく、「あたりまえのこと」として地域に根づいていくことを期待しています。



2025年にリニューアルした外国人住民向け生活ガイドブック

プロフィール



原田 成至
(はらだ せいじ)

京田辺市役所入庁 10 年目になります。多文化共生の業務以外にも大学連携を担当しております。市内で暮らす外国人住民の方々が安心して生活できる環境づくりや、大学との連携を通じた地域活性化に日々取り組んでいます。趣味は、バスケットと筋トレで、身体を動かすことが好きです。

4

多文化共生に貢献する国際交流員（CIR）②-2 ～英語じゃなくても OK—「やさしい日本語」でのコミュニケーション～

京都府京田辺市市民部市民参画課 国際交流員 シャベズ 莉愛

市職員向けやさしい日本語研修会

CIRとして、多文化共生を推進するため、外国人住民への情報提供を行っています。しかし、外国人住民の大半は非英語圏出身であるため、英語で情報を発信しても十分に伝わらない可能性が高いという課題があります。この課題を乗り越えるため、「やさしい日本語」での情報提供に関するさまざまな事業を行ってきました。

例えば、京田辺市では、2020年から市職員および国際化を推進する市民団体向けに、やさしい日本語研修会を毎年開催しています。私は、2023年からその企画・



窓口でやさしい日本語を使うコツ
(2022年度)

運営を担当し、過去のアンケートを分析した上で、受講者がより積極的に参加できる講座にするため「チームやさしい日本語」という、全国で講座を開催している団体に講師を依頼しました。

この講師団体と相談しながら、やさしい日本語のコツだけではなく、市職員などが窓口業務で使える研修会を企画しました。受講者からは高評価をいただき、2024年の研修会では、外国人との実践的なワークショップを実施しました。市の外国語指導助手（ALT）や同志社大学の留学生に協力を依頼し、参加者グループに外国人が入る形で、受講者がやさしい日本語を使って災害情報などを伝える練習を行いました。



2024年度研修会の実践ワークショップ

実際に、外国人とやさしい日本語を使って話すことで、非常に有意義な学びの場となりました。2025年も引き続き、実践形式の研修会を開催し、税金の納付や保育所の入園方法といった、京田辺市の外国人住民が実際に困った事例を取り上げ、それをやさしい日本語に置き換える内容としました。

業務の感想

受講者の多くは「外国人＝英語が通じる」と考えていましたが、実際には英語が通じないことが多く、やさし

い日本語でのコミュニケーションにより、安心して対応できるようになりました。多くの外国人住民はある程度の日本語理解力がありますが、役所の窓口で使われる表現は日常会話で使われるものとは異なるため、聞き取りづらいことがあります。例えば、「生年月日を記入してください」の代わりに「たんじょうびを かいて ください」と言い換えるだけでも日本語初心者に伝わりやすくなります。

今後の抱負

この研修会を継続して開催することで、新規採用の職員や勤続年数の長い職員にも、窓口や災害時におけるやさしい日本語



京田辺市在住外国人向けホームページでやさしい日本語とイラストを使ったアイコン

の活用をさらに促進できると考えています。今後の研修会では、窓口対応において職員が実際に経験した事例を取り上げ、それをやさしい日本語に置き換える形で紹介していくことを目標としています。

また、外国人住民向けのホームページや「生活ガイドブック」など、市の情報をやさしい日本語で発信する取り組みを進めていきたいと考えています。これにより、来庁した外国人住民が行政手続きについてやさしい日本語で問い合わせができ、職員も英語や翻訳アプリに頼らずに対応できるようになれば理想です。

プロフィール



シャベズ 莉愛（りあ）

アメリカ、インディアナ州で生まれ育ち、2021年にCIRとして着任しました。自由な時間にランニングを楽しんでおり、時々マラソン大会にも参加しています。

外国語教育に従事する国際交流員 (CIR) ①-1 ～外国語教育における高知県 CIR の活躍～

高知県文化生活部国際交流課 主査 井上 詩織

高知県国際交流課には、現在、韓国、中国、アメリカ、イギリス、ベトナム出身の5人の CIR が所属しています。



高知県国際交流課に勤務する CIR の皆さん

CIR の業務は、県が行う多文化共生・国際交流事業に関する企画調整・参加や、通訳・翻訳業務、県内の学校などへ出向いて行う出前授業、自らの経験や自国の文化について講演するイベントの開催などさまざまです。

出前授業

外国語教育に関係する CIR の活動の1つである出前授業は、CIR が講師となり、県内の学生などに授業を行います。出身国の紹介や簡単な外国語でのコミュニケーションを通じて、学生が文化の違いや外国語に触れ、外



高知県の CIR による出前授業の様子

国に興味を持つきっかけにつながっています。

また、CIR が県職員や警察官、外国語観光ボランティア団体などに向けて、外国語の勉強会を実施しています。県職員に向けては、初心者も参加できるような基礎的なレベル、警察官や外国語観光ボランティア団体に向けては業務や観光案内で活用できる実践的なレベルで開催し、語学の習得、語学力の向上につながっています。



高知県国際交流課に勤務する CIR による講座

日本語講座

さらに、高知県では、在留外国人約 6,300 人のうち、ベトナム人が約 1,500 人と最も多い一方で、県内でベトナム語を話せる人が少ないという現状があります。ベトナム出身 CIR のリンさんは、日本人向けのベトナム語講座と、ベトナム人を対象とした日本語講座を開催しました。日本語講座をきっかけに、県内在住のベトナム人のコミュニティの形成にもつながっていると聞いています。CIR の皆さんには、CIR の業務を通じて、国際交流の促進や多文化共生の推進にこれからも貢献していただきたいと期待しています。

プロフィール



井上 詩織
(いのうえ しおり)

高知県高知市出身。2025 年 4 月より国際交流課に着任し、現在は国際交流に関する業務を担当。趣味は旅行。語学の勉強を頑張りたいです。

6

外国語教育に従事する国際交流員（CIR）①-2 ～CIRの活躍：ベトナム語教育と日本語教育の推進～

高知県文化生活部国際交流課 国際交流員 Bui Khanh Linh

私は、高知県文化生活部国際交流課 CIR のリンと申します。ベトナム・ハノイ出身で、CIRになる前はベトナムの大学で日本語教育を専攻し、日本の大学院ではベトナム語の文法を研究していました。

現在は、多文化共生に関する講座や国際交流イベントを実施しています。例えば、高知県内の学校からの依頼を受け、ベトナムの文化やベトナム語に関する授業を行っています。ベトナム語は学生にとって新しい外国語であるため、授業では「こんにちは」や「ありがとう」など簡単な会話を紹介すると、非常に熱心に楽しみながら会話練習に取り組んでくれます。

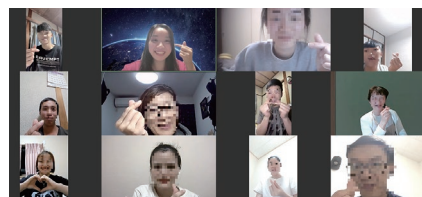
「ベトナム語チャレンジ」

このように学生から良い反応を得たことで、「ベトナム語に興味を持っている人はもっといるのではないか」と感じました。現在、高知県内には約1,500人のベトナム人が在住しており、その多くは技能実習生で、日本語があまり話せない人も多くいます。そこで、ベトナム語を少しでも知っている県民が増えれば、ベトナム人との交流の機会が広がり、さらにその交流が実習生の日本語学習意欲の向上にもつながると考えました。そうした

背景から、「ベトナム語チャレンジ」という日本人向けのベトナム語講座を企画・実施しました。講座は「自己紹介」「食文化」「観光」の3つのテーマで、3回にわたり実施しました。合計107人が参加し、受講生からは「とても新鮮でした」や「楽しくベトナム語を学ぶことができました」といった声がありました。

「みんなの日本語」

また、高知県在住のベトナム人に向けてオンライン日本語初級コース（全10回）を実施しました。授業では『みんなの日本語』（初級）を復習し、選択問題や翻訳問題の宿題も出しました。目的は、県内の日本語教室や日本語サロンへの参加を促しつつ、授業を通じて高知県の魅力を紹介し、ベトナム人が高知県での生活に慣れ、安心して働き、日本人と交流できるようにすることです。受講生は全員が県内在住の技能実習生で、授業を通じ



「高知県在住のベトナム人向けオンライン日本語初級コース」の様子

て日本語の初級文法を使って仕事や生活に関する簡単な会話ができるようになりました。母語を通じて日本語を学習できるという点に、「非常に安心感を感じました」といった声がありました。

CIRとしての仕事は非常にやりがいがあり、多文化共生社会の実現を目指して、これからも努力を重ねていきたいと考えます。

プロフィール



Bui Khanh Linh
(ブイ・カイン・リン)

ベトナム・ハノイ出身。ベトナムの大学では日本語教育を専攻し、大阪大学大学院ではベトナム語の文法を研究。2023年から2025年7月までの2年間、高知県庁でCIRとして勤務。

Kin chào

ベトナム語チャレンジ ★

ベトナム語で
買物や注文ができます
(初心者向け)

メニュー

- ✓ 楽しく学んでみたい方
- ✓ ベトナム人と交流してみたい方
- ✓ ベトナム旅行を予定している方

令和6年8月24日(土)
9:45～12:15
※9:30～受付開始
最初の30分は6/8の講座と同じ内容なので、
6/8の講座に参加した方は10:15からの受付でも大丈夫です。

★先着40名★

オーテピア 高知図書館
4F 研修室

ベトナム料理を紹介します！

日常ですぐに
使える表現！

実際に実施されたベトナム語チャレンジの広報チラシ

外国語教育に従事する国際交流員（CIR）② 異文化に興味を持ってもらうために ～こども向けの英語とニュージーランド文化クラス～

広島県三原市経営企画課 国際交流員 Jake Othniel Silvano Locop

きっかけ

私は、「国際交流の分野で働き、異文化理解を促進し、ニュージーランドと日本の懸け橋になりたい」という夢を実現するために JET プログラムに参加し、2023 年 4 月に広島県三原市に任用されました。多くの人々にニュージーランドへの興味と関心を持ってもらうことを目標に、地域の方々との交流や、自分の言語・文化・経験の共有、異文化交流ができる方法を探す中で、保育所での英語レッスンの依頼を受けました。これは、子どもたちに英語を学ぶ楽しさを知ってもらうだけでなく、異なる国や文化について学ぶことに興味を持ってもらう絶好の機会だと思ったので、迷わず引き受けました。



英語クラスでの「キャタピラーゲーム」の様子

保育所での「英語を楽しむ」クラス

現在、市内 5 カ所の保育所で、主に 4 歳～5 歳の子どもたちを対象に、毎月 1 回程度、30 分～45 分の英語クラスを行っています。英語クラスで私が大切にしていることは、「楽しむこと」です。これは、私自身の経験に基づいています。

私はフィリピンからニュージーランドへの移住を経験しました。自分が英語クラスを担当することになったとき、移住したての頃を振り返り、自分の英語力を向上さ

せるモチベーションは「楽しむこと」だったと気づきました。

そこで、クラスの内容は「色」「好きな動物」「将来になりたい職業」などのテーマ別に英単語を紹介したり、「Thank you」「You're welcome」などの一般的なフレーズを紹介したりする「学び」に加えて、私が幼少期によく遊んだゲームや絵本の読み聞かせなど「遊び」をバランスよく構成するようにしています。

その成果もあってか、毎回のクラス終了後には子どもたちから「もう一回ゲームがしたい!」とお願いされたり、英語に関する色々な質問を受けたりしています。



ハロウィーンの絵本読み聞かせの様子

「もっと知りたい」文化クラスへの発展

英語クラスに参加している子どもたちは次第に、私の出身のニュージーランドにも興味を持つようになったので、ニュージーランドに関するさまざまなクイズ（例：クリスマスは夏であること、人の数より羊の数の方が多いことなど）を遊びとして取り入れるようにしています。クイズの後には毎回たくさんの質問を受けますし、今では英語クラスをせずに文化紹介だけをする日もあるほどです。

また、月に 1 回のクラスに加えてさまざまな機会を私



クリスマスコンサートの様子

に提供してくれる保育所もあり、ハロウィンやクリスマスに、先生や保護者にも参加してもらって、それぞれの祝日の意味やニュージーランドでの祝い方を紹介したり、私が得意なバイオリンやギターの演奏でニュージーランドの人気の音楽を披露したりしています。

さらに、活動の場は保育所以外にも次第に広がり、児童館などでマオリ族の伝統的な模様を描いたり、ハカ踊り「カ・マテ」を一緒に踊ったりと、ニュージーランドの文化に関する子ども向けのイベントをさまざまな場所で実施しています。



サンタの衣装でバイオリン演奏



ニュージーランドの文化クラスの様子

懸け橋になるために

任用されてから2年間、色々なことを企画・実施してきましたが、英語・文化クラスをはじめ、年齢を問わず、参加する人に興味を持ってもらえる方法で、異文化の理



「ハカ踊り」体験講座の様子

解を深め、多様な視点を知る機会を提供することができていると考えています。また、イベントを実施する中で、多くの人と出会い、自分の文化や経験を共有する機会が広がるとともに、企画、コミュニケーション、そして創造性に関するスキルを磨くことができました。

こうして得た経験とスキルを活かし、ニュージーランドと日本の懸け橋となれるよう、これからも楽しんで取り組んでいきます。

甲冑行列に参加
(インスタグラム)

こうした異文化理解につながる活動に加えて、私の日々の活動や、三原市の魅力をSNSで発信しています。ぜひご覧ください。



MY_MIHARA

プロフィール



Jake Othniel Silvano Locop
(ジェイク・オスニール・シルバノ・ロコプ)
ニュージーランド・クライストチャーチ出身。大学で日本語を学び、日本（埼玉県）へ1年間留学し卒業した後、2023年からJETプログラムに参加。趣味は写真撮影、言語学習、楽器演奏。好物はカツカレー。

経済活動を推進する国際交流員（CIR）① 茨城県の魅力を世界に広めた貴重な3年間 ～友好提携都市交流や県産品 PR、誘客活動～

茨城県営業戦略部国際渉外チーム 国際交流員 Sophie Conn

はじめに

私が日本文化に興味を持ち始めたのは、7歳の時に地元イベントで日本の書道に出会ったことがきっかけです。その後、予想以上に日本文化に対する興味が芽生え、大学で日本語を専攻し、日本で働くことになりました。CIRとしての3年間で、多くの文化活動に参加でき、かつ経済交流にも関わる機会に恵まれました。2022年に茨城県庁に配属された時から、外国人に知られていない茨城県の魅力を発信したいと思っており、県産品PRや誘客活動などを通じて、県が進める事業に関わることができ、特にやりがいを感じています。

友好提携都市に関する交流活動

茨城県では、「科学万博つくば'85」での交流を契機として、翌年にイタリア共和国のエミリア＝ロマーニャ州と友好都市を提携し、さまざまな分野に関する交流が進んでいます。こうした継続的な交流の中で、県の工芸品や県産品のPRを行い、文化交流の促進を手伝うために2024年10月にエミリア＝ロマーニャ州を訪れました。

ラヴェンナ伊日交流協会主催のジャパンフェスティバル「十月日本祭り」の一環として、10日間にわたりさまざまなイベントを開催し、県産品や文化を実際に体験してもらうことを通じて、友好都市や茨城県ならではの魅力の認知度を向上させることができました。



ラヴェンナ市にある映画館で行ったお茶会の様子

茨城県の伝統的な陶器「笠間焼」や和菓子「西山の雪」を使った「お茶会」を、12世紀に建てられた市庁舎、陶芸博物館、映画館、そしてプラネタリウムなど多岐にわたる伝統的なイタリアの会場で4回開催しました。私は小学生の頃から日本の茶道に興味を持っていたため、毎回、デモンストレーターとしてお茶会に参加できことを非常に嬉しく思いました。その上、国際陶磁器博物館で日本現代コンサートも開催し、日本オペラ歌手が茨城県の作曲家・野口雨情の曲を、日本語でイタリアのオペラスタイルで披露しました。さらに、子どもたちを対象に、日本の昔遊びや茨城県に特有の「紙芝居」や県伝統工芸品の「いばらき組子」などを紹介する2つのイベントも行い、現地の子どもたちに日本の文化を身近に感じてもらうことができました。

文化交流活動に加え、水府提灯、西ノ内紙、結城紬の羽織などの工芸品を紹介する展示会も約2週間にわたり、ファエンツァ市役所で開催し、来館する人々に茨城県の魅力を上手に伝えるために展示準備を行いました。



昔遊びのイベント（左）と日本現代コンサート（右）も開催

これらのイベントは現地で非常に人気がありました。私自身が非常に興味を持っていることでもあり、イタリアで県産品を紹介し、日本文化を海外で広める一翼を担うことができ大きな喜びを感じました。

両地域の強みを生かす経済交流

締結から来年40周年を迎えるにあたり、交流のきっかけとなった万博を記念し、現在、国の万博国際交流プログラムを活用し、エミリア＝ロマーニャ州政府とさま

ざまな交流に取り組んでいます。2年前には、州政府の代表団や州の企業が来県した際、農業分野の代表団の訪日に同行する機会がありました。農業や食品生産は両地域の主要産業であり、共通の課題や関心、今後の連携の可能性が多くあることを実感しました。

現在は、両地域の特性を活かし、航空宇宙分野での交流イベントの準備も進めています。今後さらに交流が展開していくことが期待される中で、40年前に始まった交流が新たな形へと広がっていく様子を見届け、関わることができて大変興味深く感じています。

誘客 PR 活動

2024 年秋、東京駅で開催された茨城アフターデスティネーションキャンペーン開幕直前 PR イベントに参加し、通訳として活動しました。多くの外国人観光客を迎え、結城市の結城紬の着物や坂東市ゆかりの甲冑を紹介し、実際に来場者に着用していただきました。私自身も結城紬を着て、大井川知事と共にステージに立ち、開会のあいさつを行ったことは特に印象深い瞬間でした。着物を着ることや、着物のイベントに参加することが個人的な趣味でもあるため、このイベントに参加できたことはとても特別な経験でした。茨城県の観光地と県産品を、外国人観



東京駅で行った誘客イベントで大井川知事（中央）と参加

光客に実際に体験してもらいながら紹介できたことは、茨城県の魅力を伝える上で非常に有意義でした。また、多くの参加者が茨城県を訪問先に加えると言ってくれたことが、とても励みになりました。

県北の魅力在海外へ発信

茨城県の県北地域は、美しい里山風景と素晴らしい自然に恵まれており、6市町にまたがる地域を歩きながら地域の文化や日本の原風景に触れ、楽しめる「常陸国ロングトレイル」と呼ばれるトレイルがあります。個人的にもよく訪れていますが、仕事としても国際的な訪問者をお迎えし、通訳として関わることができました。

特に印象に残ったのは、前駐日ヨルダン大使が常陸国ロングトレイルを訪れた際に通訳として同行した経験で

す。大使がこの地域を気に入られ、2023 年 5 月には実際に県知事と共に歩いて体験し、国内外向けのプロモーションビデオを撮影していただきました。私は大使に同行し、記者との会話のほか、県産品を使用して特別に用意された昼食の説明などを通訳しました。この訪問を通じて、大使が感じた茨城県北の魅力やその国際的な可能性を直接体験できたこと、そしてその魅力を海外に発信する役割の一



県知事（中央）とアンナ・ブ前駐日ヨルダン大使（右）と登山

端を担ったことは、私にとって非常に特別な瞬間でした。大使の訪問が、茨城県の観光推進活動において重要な役割を果たし、茨城県北の知名度向上に多大な貢献をいただいたことを嬉しく思います。なお、同年 10 月にはヨルダン・トレイル協会と茨城県がパートナーシップ協定を締結しました。

終わりに

茨城県庁に配属された初日から、県の魅力を海外へ発信する仕事に強い意欲を持ち、この活動に大きなやりがいを感じてきました。東京都内でのイベントや登山、さらには海外での経済交流活動にも関わることができ、さまざまな場面で茨城県の魅力を発信する機会に恵まれ、このような貴重な経験を得られたことに大変感謝しています。

この3年間で茨城県の魅力を学び、海外の人々に紹介する役割を果たせたことを非常に誇りに思っています。今年、任期が終了しますが、今後もどこに行っても茨城の県産品や観光の魅力を広め続けていきたいと思っています。

プロフィール



Sophie Conn
(ソフィー・コン)

イギリス、ロンドン出身。7歳の頃に書道に興味を持ち、日本語を勉強し始めました。大学では英文学と日本学を専攻し、東京へ短期留学。2021年に卒業後、翌年4月にCIRとして来日。

経済活動を推進する国際交流員 (CIR) ②-1 ～医療機器産業のグローバル展開において CIR が担う役割～

福島県商工労働部次世代産業課医療関連産業集積推進室 副主査 目黒 美咲

医療機器産業のグローバル展開は復興の柱

福島県では復興の柱の1つとして、医療関連産業の集積に取り組んでいます。世界の医療機器市場は今後も拡大が見込まれており、県内企業の医療機器の販売・生産金額の増加のためには、海外への展開が欠かせません。

具体的な取り組みとしては、医療機器に係る世界的先進地であるドイツ・ノルトライン＝ヴェストファーレン州 (NRW 州) などと医療関連分野における連携強化の覚書を締結しています。相互地域における展示会への出展などを行い、さらなる医療関連産業の振興のために経済交流の実績を積み重ねています。



世界最大級の国際医療機器技術・部品展「COMPAMED」の福島県ブースの様子

医療機器産業の発展に貢献する CIR

県内には高度な技術をもつ中小企業が数多くありますが、企業が自力で海外販路を開拓していくのは容易ではありません。海外との商習慣の違いや、英語を話せる従業員がいないため商談が難しいなどの理由から、海外展開に関心があっても踏み出せずにいる企業が多くあります。そこで、本県では海外展示会出展を中心とした製品・技術 PR の機会を作ることで、県内企業の海外販路開拓・海外進出を支援してきました。

本県では経済交流をより活発にするための懸け橋となってもらうべく、2015 年から CIR の任用を開始しま

した。CIR が担う業務は NRW 州などとの交流事業のサポート、セミナーなどの開催を通じた海外連携の成果 PR、諸資料の作成・翻訳など多岐にわたります。交流事業やセミナーの開催がない時期にも、海外展示会出展企業を対象に CIR による英会話レッスンを継続的に提供する「英語力向上講座」を実施しており、参加企業から好評を博しています。



連携覚書締結の様子 (左：福島県知事、右：NRW 州経済大臣)

CIR のさらなる活躍への期待

本県では NRW 州のほか、スペイン・バスク州およびタイ王国と医療関連分野における連携強化の覚書を締結しており、各地域との経済交流を進めていくためには、CIR の高い言語能力が必要不可欠です。CIR が円滑な経済交流を行うための懸け橋として活躍することで、各地域との結びつきをより強固なものにし、本県の医療関連産業のさらなる発展に寄与することが期待されています。

プロフィール



目黒 美咲
(めぐろ みさき)

2018 年厚生労働省入省。法令案の審査業務や、医薬品行政にかかる経理業務に従事。
2025 年 4 月より福島県庁に出向し、医療機器産業のグローバル展開事業などを担当している。

10

経済活動を推進する国際交流員（CIR）②-2

～復興に取り組む「福の島」～

福島県商工労働部次世代産業課医療関連産業集積推進室 経済交流員 Hannah Haase

経済交流員とは

「経済交流員」と聞いて何を思い浮かべますか？ CIR の中でも珍しいポジションなので、想像が上手くできない方も多いと思いますが、経済交流員の主な仕事は、言葉どおりに日本地域と海外地域のビジネス関係を支援することです。

世界から福島県へ

経済交流の主な舞台は展示会です。企業は展示会において、ビジネスマッチングやネットワーキングの構築を行います。

福島県では毎年、医療機器と再生可能エネルギーのそれぞれの展示会が開催され、これに参加するために海外連携地域の企業とドイツ・ノルトライン＝ヴェストファーレン州（NRW 州）経済省の代表が来県します。展示会に向けた私の主な仕事は、資料の翻訳と現場での通訳です。展示会の開催中、私は「海外ブース担当」として、日本語を話せない出展者や初めて来日する出展者を手助けします。



展示会でのプレゼンの様子

福島県から世界へ

年に2回、NRW 州で開催される展示会に福島県の企業が出展しています。海外出張の準備や手配をする時期が私にとって一番忙しい時期です。前回の2月の出張で

は、展示会場で NRW 州との共同セミナーを企画しました。また、セミナー会場のレイアウトを考え、イベントを宣伝するチラシの作成も担当しました。

業務では臨機応変な対応が求められる

海外出張で学んだことの1つは、どんなに綿密な計画を立てても、常に予測不能なことが起こるということです。例えば、展示会場の近くにある駅で第二次世界大戦時の不発弾の処理作業のため、展示会が途中で終了したり、共同セミナーの日に公共交通機関のストライキがあり、急遽タクシーを手配したりしました。また、一昨年にはセミナーのために注文したマイクが届かず、他のブースから借りることになりました。そして今年は、ケータリング用の寿司の受け取り場所を同僚が見つけれず、私は寿司を受け取るために展示会場を飛び出さなければならませんでした。このように、いつも何かしらの予測不能なことが起こるので、海外出張は何回行っても飽きることがありません。

CIR としての3年間を振り返る

CIR としての活動の中で、たくさんの人と名刺を交換し、知り合うことができました。特に、お菓子づくり講座のような文化的なイベントを主催した際には、福島の人たちと触れ合うことができ、とても楽しかったです。今年の7月で私の CIR としての活動期間は終了しますが、連携地域とのコラボレーションは今後も順調に続いていくことでしょう。

プロフィール

**Hannah Haase**
(ハナ・ハーゼ)

ドイツ・バイエルン州出身。2022年から2025年までの3年間福島県で経済交流員として勤務。大学(院)で日本学、ドイツ文学、比較文学を専攻。日本以外では、イギリスとオランダでの海外生活経験がある。趣味は読書、お菓子作りと謎解きゲーム。